



鼓童メンバーからのメッセージ

すべて舞台につながっている
大井キヨ子

鼓童の会の皆様への機関誌や柿の発送作業をはじめ、農作業でも研修生と関わる大井キヨ子。伝えたいことは、研修生や若手に限らず基本に立ち戻るキーワード。自ら叩き込まれた経験であり、初心を忘れずに今も意識し続けていることでした。

姿勢のこと

私が鬼太鼓座時代に叩き込まれたことは「目を見て人の話を聞け」「まっすぐぐ前に目線を置いて、マリオネットになつたように芯がぶれないように走れ」「常に背筋をまっすぐにしろ」ということでした。太鼓を叩く以前の、もっと基本的な姿勢のことでした。

研修生の様子を見てみると、基礎体力に欠けていて姿勢が悪く、目線や足音も気になります。鼓童の舞台は、楽器の転換場面も舞台の一部として見られています。音がない世界は、姿勢や歩き方が重要です。また姿勢が悪いと内蔵を壊したり、体を壊すことにもなります。背筋を伸ばし、きちんとした姿勢で歩く。稽古中の緊張感の中ではできていても、普段の生活で戻ってしまったのは、習慣にはなりません。

道具のこと

年に数回、研修生と一緒に森の作業をしますが、研修生の道具の使い方を見て感じる点があります。日本の「のこぎり」は、引く時に力を入れると切れるようにできています。使い方を知らずに、前後にむやみに力を入れるだけだと、刃がブレだして先がポキンと折れてしまいます。どこで力を抜くとか、入れるとか手先の感覚が掴めないようです。道具は仕事を楽にするために考えられているのです。のこぎりもパチも使う時は、どう扱えばいちばん使いやすいか考えるのが大事です。

自主的に学ぶということ

子どもの時に田んぼ作業や土いじりをして遊ぶ経験がなく、研修所での農作業が初めての体験という人がほとんどです。「虫はダメ！」と言わず、虫も可愛いと思いついで、どんなことにも挑戦してほしいです。農作業は、決められた時間だけでなく野菜の成長を見て間引き作業をしたり水やりをしたり、どこまで自主的に行えるかだと思います。教わったことも、自分から進んでやってみることで、その理解度は全然違ってくると思います。

すべて舞台につながっている

ひとつひとつの稽古の中では意識していることも、それが生活を通じて繋がっていないように思います。点と点を結んで線になるように、これらのことはすべて、研修生が目指している鼓童の舞台につながっていることを忘れないで欲しいです。あとは、体力と和(集団行動)、みんなが舞台を作ろうという気持ちですよ。

そして、もうひとつ。自分の体のことも感じ取って、うまくリラクセスすることも忘れずに。



研修所講師の先生方(敬称略)

佐藤利夫 [講義] 佐渡研究者
福島徹夫 [講義] 元新潟県栽培
漁業センター所長

桃井宗生 [茶道] 裏千家学校茶道教授
松永政雄 [能] 宝生流教授嘱託
幸清流小鼓準職分

小笠原匡 [狂言] 能楽師和泉流狂言方
金城光枝 [琉球舞踊] 琉球舞踊家
太主流華の会師範

岡田京子 [歌] 作曲家
伊藤多喜雄 [唄] 民謡歌手

赤塚五行 [俳句] 新潟日報佐渡版俳句選者
熊田勝博 [講義] 照明家

葛原正巳 [陶芸] 陶芸師
西須殉治 [木工] 指物師

岩崎ちひろ [魚のさばき方] 魚屋
松田祐樹 [講義] 佐渡の芸能研究者

狩野泰一 [笛] 篠笛奏者
金子竜太郎 [太鼓など] 和太鼓奏者

特別講師

岩手県盛岡市・黒川さんさ踊り保存会の皆様
秋田県雄勝郡羽後町・西馬音内盆踊り
「北の盆」の皆様

鼓童メンバー講師

大井良明、藤本吉利、小島千絵子、
藤本容子、大井キヨ子、山口幹文、齊藤栄一、
見留知弘、新井武志、石塚充
(補佐：辻勝、船橋裕郎、砂畑好江、阿部研三)
青木孝夫、菅野敦司、山口康子、千田倫子、
石原泰彦、後藤美奈子、松浦充長、
土橋達也、メロニーテイラー

お悔やみ
二〇一〇年まで研修所の講師として自然観察等をご指導くださいました、伊藤邦男先生が本年十月にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。